

イサザ仔魚期の生息環境と消化管内容物

上野 世司・上垣 雅史・寺井 章人・西森 克浩・二宮 浩司

1. 目 的

イサザの仔魚期初期の生態について既存の知見はほぼ皆無である。そこで、仔魚期の生息深度や餌の情報を得るため、琵琶湖において多層曳きネットによりイサザ仔魚の採集を試みるとともに、得られた仔魚の消化管内容物を調査した。

2. 方 法

2011 年 6/2 と 6/20 に塩津湾、海津大崎沖、長浜沖において多層曳きネットを曳網し、イサザ仔魚の採集を試みた。曳網深度は約 20m までの 3 層とした。自記深度計により曳網深度を記録した(中層を除く)。同時に動物プランクトンを採集し、水温の鉛直分布を測定した。

3. 結 果

6/2 および 6/20 の塩津湾と海津大崎沖(曳網深度 3.7~19.4m)において、イサザ仔魚が合計 8 尾(体長 2.8~6.0mm)採集された。仔魚が採集された深度の水温は 13.1~15.7 であった。

採集した仔魚の消化管からはハネウデワムシ、カイアシ類幼生(ノープリウス、コペポデイド)が確認された(図 1)。同時に行ったプランクトン調査によると、これらはいずれも環境水中に比較的高い密度で存在した。仔魚は、成長に応じてより大きな餌を摂食する傾向がみられた(図 2)。

4. 成 果

仔魚の摂食物の種類やサイズの特徴については、仔魚の採集個体数が少ないため、今後個体数を増やして検討する必要がある。



図 1 琵琶湖において採集されたイサザ仔魚と消化管内容物の例。

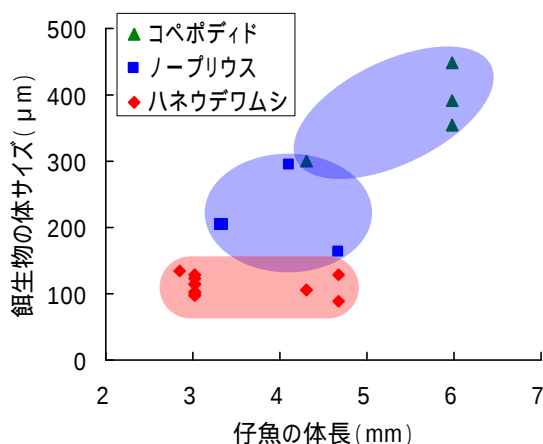


図 2 野外で採集したイサザ仔魚と消化管内の餌生物のサイズの関係。仔魚は、成長に応じてより大型の生物を摂食していた。の 1 点については、酒井ら(2012)による値をプロットした。